

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 15 日現在

機関番号：28003

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22300211

研究課題名（和文）野外教育によるコミュニケーションスキルの獲得—プログラム開発と因果モデルの構築—

研究課題名（英文）Acquisition of Communication Skills through Experiential Outdoor Education Activities- Program Development and Cause and Effect Model Construction -

研究代表者

柳敏晴（YANAGI TOSHIHARU）

名城大学・人間健康学部・教授

研究者番号：30239800

研究成果の概要（和文）：

平成 22 年度は、効果測定尺度作成を、対象者別項目収集及び整理検討と予備調査、プログラム別仮プログラム作成・実施と要因探索から、プログラム開発・モデル構築を試みた。

平成 23 年度は、効果測定尺度作成を、対象者別本調査実施と尺度の信頼性・妥当性の検討から進め、プログラム別修正プログラムの実施し、因果モデル作成を試み、プログラム開発とモデル構築を進めた。

平成 24 年度は、対象者別プログラム評価への使用と妥当性検討から、効果測定尺度作成を試み、プログラム開発とモデル構築に挑戦した。

研究成果の概要（英文）：

Year 2010 our project team tries to make out the program development and the model construction those drawing up the effect measure scale collecting items through every objects and pre research and construct tentative programs.

Year 2011 our project team puts forward drawing up reliance and adequacy the effect measure scale then improves the program development and the model construction.

Year 2012 our project team challenges the program development and the model construction through program assessment of every objects and examination of adequacy.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2011年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2012年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
年度			
年度			
総計	13,400,000	4,020,000	17,420,000

研究分野：野外教育学、心理学、スポーツコーチ学、運動方法学

科研費の分科・細目：身体教育学

キーワード：野外教育、コミュニケーションスキル、プログラム開発、因果モデル構築、生きる力、learning by doing、first hand experience、ドラマチック体験、自然環境

1. 研究開始当初の背景

近年の青少年の非社会的問題行動を鑑みると、背景にはコミュニケーション問題が関与している。非社会的行動の多くは仲間との対人関係を中心に引き起こされており、人と人との関わり方であるコミュニケーションスキル獲得は、種々の非社会的行動に効果的な予防手段となると考えられる。

2. 研究の目的

本研究では青少年の非社会的行動の増加予防のため、コミュニケーションスキル獲得に焦点を当てた効果性の高い野外教育プログラム開発を目的とした。本研究では同時に、野外教育プログラムにおける複数の関連要因から効果の媒介変数を特定し、因果モデルの構築も目的とした。コミュニケーションスキル獲得に最適な野外教育プログラムとそのメカニズム提示が可能となる。

3. 研究の方法

本研究プロジェクトは、野外教育によるコミュニケーションスキル獲得に深い造詣を有する9名から構成した。研究分野は、野外教育学、カウンセリング学、発達心理学、スポーツ心理学、健康心理学、スポーツ社会心理学、スポーツコーチ学、運動生理学、児童教育学、等々多岐に及ぶ。多面的・学際的視点から、包括的研究を遂行する構成を行った。

野外教育によるコミュニケーションスキル獲得を解明するため、「野外教育でのコミュニケーションスキル獲得を解明するための効果測定尺度の開発」と「プログラム開発及び因果モデルの解明」を進めるため、以下の年度計画で進めた。

平成22年度：対象者別尺度作成項目収集と予備調査、体験活動プログラム開発と有効性検討、要因の探索

平成23年度：尺度作成と信頼性妥当性の検討、プログラム修正・改善と実施・評価、因果モデル作成

平成24年度：コミュニケーションスキルプログラム評価と妥当性検討、修正プログラム実施と因果モデル検証

4. 研究成果

平成22年度

先行研究から得られた資料の整理を行い、野外教育において獲得されるコミュニケーションスキルの内容検討と効果測定尺度作成の予備調査を実施した。プログラム別仮プログラム作成実施と、要因探索から、プログラム開発・モデル構築を試みた。

具体的な研究成果は、原著論文7編(海外1編)、著書8編、学会発表15編(海外2編)、講演・ワークショップ・シンポジウム・コメンテーター等7回で、研究成果報告書(79頁)を発刊した。

平成23年度

効果測定尺度作成を、対象者別本調査実施と尺度の信頼性・妥当性の検討から進め、プログラム別修正プログラムを実施し、因果モデル作成を試み、プログラム開発とモデル構築を進めた。

具体的な研究成果は、原著論文13編(海外1編)、著書9編、学会発表19編(海外3編)、講演・ワークショップ・シンポジウム・コメンテーター等29回で、研究成果報告書(82頁)を発刊した。

平成24年度

対象者別プログラム評価への使用と妥当性検討から、効果測定尺度作成を試み、プログラム開発とモデル構築に挑戦した。

具体的な研究成果は、原著論文14編(海外1編)、著書11編、学会発表20編、講演・ワークショップ・シンポジウム・コメンテーター等25回で、研究成果報告書(104頁)を発刊した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計34件)

1. 平野貴也、柳敏晴、木島晃、セーリングスポーツにおけるコミュニケーションスキル評価尺度の作成と信頼性・妥当性の検討ーセーリング経験による影響に着目してー、名桜大学総合研究所紀要、19. 査読有(2011)

2. 中西匠、松本裕史、大学スキー実習における学習者間の教え合いの活性化ーバディシステムの導入とリフトでの学習カードの活用ー、健康運動科学、2(1)45-53. 査読有(2011)

3. 高橋幸一、西田順一、柳川益美、小学生の身体活動セルフ・エフィカシー向上を意図した身体活動介入「自遊自財」の効果検証ーメンタルヘルスの改善・向上にも着目してー群馬大学教育学部紀要芸術・技術・体育・生活科学編46:105-115. 査読有(2011)

4. 橋本公雄、村上雅彦、運動に伴う改訂版ポジティブ感情尺度(MCL-2)の信頼性と妥当性、健康科学、33. 査読有(2011)

5. 橋本公雄、体育実技授業における心理社会要因を媒介変数としたメンタルヘルス改善・向上効果のモデル構築、大学体育学、9:57-67. 査読有(2012)

6. 手島史子、子安崇夫、牧野共明、大学の野外教育における教育的効果の検証ーねらいに対する記述の分析よりー、山口短期大学研究紀要、33. 査読有(2013)

[学会発表] (計54件)

1. Yanagi, T., & Nishida, J.: Japanese Sense of Nature vs. Eco-realities: Implications for Outdoor Education. The Fifth International Outdoor Education Research Conference 2011, Denmark, 7. 4-8. 2011.

2. 中島俊介、太鼓遊びによるコミュニケーションスキル向上プログラムの開発、日本教育心理学会第53回総会、札幌市、2011、7.24-26.
 3. 橋本公雄、運動・スポーツに伴うメンタルヘルス向上効果のモデル構築、九州体育・スポーツ学会第59回大会、鹿児島市、2010、8.
 4. Tsutsumi, T., Nagatani, F., & Kato, Y. : The effects of group social skills intervention to improve social communication and friendship in children with autism spectrum disorders in community practice setting. The proceeding of 6th World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, 110, Boston University, 2010, 6. 5.
 5. 手島史子、牧野共明、子安崇夫、柳敏晴、大学野外活動における自己肯定感意識の変化と日常への汎化、九州スポーツ心理学会第24回大会、長崎市、2011、3.5-6.
 6. 柳敏晴、海洋スポーツ・レクリエーション種目・海域の多様性と安全 1、日本海洋人間学会第1回大会、東京都、2012、9.22-23.
 7. 森泰史、西田順一、チームメンバーによるソーシャルサポートがコレクティブ・エフィカシーに及ぼす影響、群馬栃木体育学会研究集会、前橋市、2013、3.9.
 8. 手島史子、子安崇夫、大学の野外教育における教育的効果の検証(3) -ねらいに対する記述の分析より-、日本野外教育学会第15回大会、那覇市、2012、7.7-8.
- [図書] (計 28 件)
1. 西田順一、第3章野外教育の効果-どのような研究がされているか-、星野敏男編、野外教育入門シリーズ、野外教育の理論と実践、杏林書院、24-25. (2011)
 2. 松本裕史、運動行動の変容-トランスセオレティカル・モデル、運動行動の促進-運動実践への介入、運動実践と環境-運動の継続を支える社会的文脈要因、中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編、よくわかるスポーツ心理学、ミネルヴァ書房、118-125. (2012)
 3. 山谷敬三郎、粥川道子、柳敏晴、第4部北方圏における自然体験活動第1章体験活動の現状と課題、中川功哉、粥川道子他編、北方圏における生涯スポーツ社会の構築、北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター、響文社、190-200. (2011)
 4. 堤俊彦、健康行動変容のための動機づけと実践への介入、杉原隆(編)、生涯スポーツの心理学、福村出版、208-220. (2012)
 5. 手島史子、第3章水辺の野外教育の効果、星野敏男編、野外教育入門シリーズ、海辺の野外教育、杏林書院、23-31. (2011)
 6. 西田順一、第2章第3節メンタルヘルス、第12章社会的スキル向上を意図した大学体育、橋本公雄・根上優・飯干晃(編著) 未来

- を開く大学体育-授業研究の理論と方法-、56-61、187-196、(2012)
7. 松本裕史、身体活動の開始と継続、上淵寿編、キーワード動機づけ心理学、金子書房、217-225. (2012)
 8. 松本裕史、自己決定論、健康運動の継続に関する研究、健康運動の実際場面への動機づけの適用、石井源信・楠本恭久・阿江美恵子編、現場で生きるスポーツ心理学、杏林書院、24-26、33-35、38-39. (2012)

[産業財産権]
○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

柳敏晴 (YANAGI TOSHIHARU)
名桜大学・人間健康学部・教授
研究者番号：30239800

(2) 研究分担者

西田順一 (NISHIDA JYUNICHI)
群馬大学・教育学部・准教授
研究者番号：20389373

橋本公雄 (HASHIMOTO KIMIO)
熊本学園大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：90106047

藤永博 (FUJINAGA HIROSHI)
和歌山大学・経済学部・准教授
研究者番号：20238596

堤俊彦 (TSUTSUMI TOSHIHIKO)
福山大学・人間文化学部・教授
研究者番号：20259500

松本裕史 (MATSUMOTO HIROSHI)
武庫川女子大学スポーツ健康科学部・講師
研究者番号：20413445

榮樂洋光 (EIRAKU HIROMITU)
鹿屋体育大学・その他部局等・助教
研究者番号：50546760

手島史子 (TESHIMA FUMIKO)
山口短期大学・その他部局等・准教授
研究者番号：60342325

中島俊介 (NAKASIMA SHUNSUKE)
北九州市立大学・公私立大学部局等・教授
研究者番号：80183507

(3) 連携研究者
()

研究者番号：